世界の幸せをカタチにする。
Creating Peace & Happiness for the World
Musashino University
武蔵野大学 学術機関リポジトリ
Musashino University Academic Institutional Repository

The User Evaluation in Intergenerational Exchange Facility : Based on the Narrative of the Elderly and Mothers in Child Care

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-04-10 キーワード (Ja): キーワード (En): intergenerational exchange, social participation, parenting support, evaluation 作成者: 田中, 直子, 齋藤, 泰子 メールアドレス: 所属:
URL	https://mu.repo.nii.ac.jp/records/765

研究報告

世代間交流施設における利用者評価

―高齢者と子育て世代の母親の語りから―

The User Evaluation in Intergenerational Exchange Facility

―Based on the Narrative of the Elderly and Mothers in Child Care―

田　中　直　子[1]　　齋　藤　泰　子[2]
Naoko Tanaka　　Yasuko Saito

要　旨

目的：高齢者と子育て世代の母親が直接世代間交流する先駆的な施設に着眼し，施設利用者と施設スタッフの語りから，施設の持つ意義と役割を明らかにする．

方法：対象は施設利用者（高齢者３名，子育て世代の母親３名）と施設スタッフ（３名）とした．研究デザインは質的記述的研究デザインとし，自記式質問紙を併用した半構成的インタビューを行った．分析方法は，自記式質問紙は単純に集計し，インタビューは，内容分析を行った．

結果：施設を評価する視点を有する 606 文脈単位のコードを抽出し，【サービスの良さ】【高齢者支援の機能がある】【子育て支援の機能がある】【コミュニケーションが拡がる】【家としての機能がある】【世代間の交流がある】【社会参加としての機能がある】【地域コミュニティへの参加】【母性の深まり】の９カテゴリが抽出された．

考察：ワンコインランチや多様なプログラムの【サービスの良さ】と，玄関，庭，台所機能や食事スペース，畳部屋などの一戸建て住宅の建物の特性の【家としての機能がある】ことが，交流を促進していた．また，【社会参加としての機能がある】【地域コミュニティへの参加】が明らかとなった．さらに，子育て世代の【母性の深まり】が見出された．自治体の施設として，対象者別施設が多い中，本施設は多世代（高齢者，子育て世代，中高年，児童，乳幼児）が参加，協力し合って高齢者支援，子育て支援に取り組む世代間交流の機能と役割が果たされていることが明らかになった．

キーワード：世代間交流，社会参加，子育て支援，評価

Abstract

Purpose: The purpose of this study was to focus on the pioneering facilities where the elderly and mothers of childrearing interact directly among the generations, and to clarify the significance and role of the institutions from users and the staff who work there.

Method: The study subject were facility users (three elderly people, three mothers of childrearing) and staff of intergenerational exchange facilities (three people). The study design was a qualitative study design. The

1　武蔵野市　市民部保健課　　Musashino City Goverment Citizen's General Services Department National Health Insurance Section
2　武蔵野大学看護学部　　Musashino University, Faculty of Nursing

investigation was performed was using semi-constructive method where the interview was self-completed questionnaire style. In the analysis method, the answers from self-competed questionnaires imply summed up, and as for the interview, a content analysis was performed.

Results: In this research, we derived the context unit codes to evaluate 606 facilities with a point of view and nine categories as follows: [Quality of service], [There is a function to support the elderly], [Childcare support function], [Communication expansion], [Function as a house], [Intergeneration Exchange], [There is a function as a social participation], [Participation in community], and [Deepening of motherhood].

Conclusion: Categories which prompted intergenerational exchange included [Quality service] such as "One-coin lunch" and various programs and [Function as a House] with characteristics such as the building of single-family houses with entrance, garden, kitchen function, meal space, and tatami room, etc.

Also, it was revealed that such facilities have [Function as social participation] and [Participation in local community]. Furthermore, the study revealed the role of [Deepening of motherhood] in childrearing generation. Our study showed that, although there are many subject facilities owned by municipalities, such facilities fulfilled the roles in multi-generation（elderly, childrearing generation, the middle-aged and elderly, children, infants）participation, cooperation to support of intergenerational exchange function by the elderly, and support of duties in childrearing.

Keywords:：intergenerational exchange, social participation, parenting support, evaluation

Ⅰ．はじめに

我が国は経済成長による国民生活水準の向上や医療技術の進歩等から平均寿命が延伸し，世界が経験したことのない超高齢社会を迎えている（内閣府，2012）．また，我が国の人口問題は，単に人口が減少するという側面に限らず，生産年齢人口が減少（国立社会保障・人口問題研究所，2012）し，労働力の不足や経済が硬直化するという問題を抱えている．そして，減少する労働力を補うものとして，高齢者の労働力が注目されているところである（岡，2009）．さらに，これからの社会では年齢にとらわれることなく自らの責任と能力において，自由で元気で生き生きとした生活を送れることが望まれ，そのために，高齢者が社会参加し生きがいを持てるような条件整備が必要とされ，社会全体として高齢化への対応を図ることが重要である（高間，杉原，2002）としている．そして，高齢者が労働や地域などで社会参加していくことは，生きがい，孤立の予防，健康保持，長期的には介護予防にもつながると考えられている．

一方，子育てについて佐藤，田高，有本（2014）は，都市部においては，転居による人の移動，集合住宅の増加や子どもを連れて行ける場が少ないこと，近隣との日常的な付き合いが持ちにくいこと，深い付き合いを望まない人が増えていることなどから，乳幼児を持つ母親の孤独感の問題をあげ，子育ての孤立が社会問題となっていると述べている．

このような社会背景の中，高齢者と子育ての問題を両得的に解決する方法の一つとして世代間交流が考えられる．世代間交流については，草野（2004）が利点として，①子どもにとって家族や学校だけに限定された人間関係の拡大，②高齢者の社会的孤立を防ぐ，③高齢者の能力，英智，経験の社会的活用，④交流を通じて地域社会の統合，⑤歴史的・文化的交流と伝承，⑥社会問題の解決を上げている．

世代間交流に関する先行研究として，高齢者と子どもの異世代間交流についての研究はあるが，高齢者と子育て世代の母親との関わりに焦点を当てた研究はみられない．生産者人口が減少する中，高齢者は社会を支える人材として活躍が期待されているが，高齢者の豊富な経験が子育て支援に生かせないか，また，1つの施設で複数の政策課題の解決が可能であれば少ない労働力で多くの課題を解決できるのではないかと考えた，そこで，本研究では，高齢者と子育て世代の母親が交流をしている先駆的な世代間交流施設（地域の人材と建物を有効活用した上で，年間1千万円を上限とした市の補助を得て運営する施設）での取り組みに着眼し，同施設における利用者評価を試みることとした．

Ⅱ．研究目的

本研究は，高齢者と子育て世代の母親が直接世代間交流する先駆的な施設に着眼し，利用者と施設スタッフの思い，考え，目的，経験等の語りから，利用者にとっての施設が持つ意義や役割について，明らかにすることを目的とする．

Ⅲ．研究方法

１．研究方法

本研究は，Ａ市のＢ世代間交流施設に関わる研究協力者（高齢者３名，子育て世代の母親３名，スタッフ３名）（以下「研究協力者」という.）を対象とし，自記式質問及びインタビューを行った.

２．データの分析方法

１）自記式質問は単純集計した.

２）インタビューで得られたデータは，逐語録を作成し内容分析を行った.

３）分析方法

逐語録を作成し，スライスとコーデイングによって，調査で得られたデータ（記述的データ）を内容分析した.

４）用語の定義

①世代間交流

社会に存在する様々な資源や知識・知恵を高齢者世代と若年世代の人々で交換し合い，個人や社会の役に立つものにしていくための意図的・継続的な仕掛けとした.

②社会参加

制度や政策において明確に規定されていないため，一致した見解が得られていないが，本研究では，集団で行っている諸活動への自発的参加（樋口,2014）とした.

③子育て支援

全ての子どもの健やかな成長のために適切な環境が等しく確保されるよう，国，地方公共団体又は地域において実施する子ども及び子どもの保護者に対する支援とした.

④評価

利用者と施設スタッフの語りから，施設をどう評価しているのか分析するものとした.

５）調査期間

2015 年 8 月から 11 月まで

３．倫理的配慮

本研究は，武蔵野大学看護学部研究倫理委員会の承認（承認番号 2703-2）を得て行い，以下の点について十分に説明を行い，同意を得た.

１）研究協力者の研究への参加・協力についての自由意思・拒否権

２）データ収集方法とその説明・同意を得る方法

３）個人情報・プライバシー保護の方法・研究結果の公表方法

４）研究協力者が得る利益及び予測される研究協力者の不利益と回避方法

Ⅳ．結　果

１．研究協力者の属性

研究協力者は，高齢者３名，子育て世代の母親３名，スタッフ３名の合計９名であり，平均年齢は，高齢者が 82.3 歳，子育て世代の母親が 34.0 歳，スタッフは 63.7 歳であった．全員が女性で，子育て経験は高齢者１名を除いて経験者であった.

２．利用者の語り

論文の構成上，カテゴリは【　】，サブカテゴリを〔　〕，コードを〈　〉，高齢者と子育て世代の母親の語りを「　」で表す.

内容分析の結果は，世代間交流施設を評価する視点について，高齢者，子育て世代の母親，スタッフの語りから施設を評価する視点を有する 606 文脈単位を抽出し，それぞれの分析の結果から【サービスの良さ】【高齢者支援の機能がある】【子育て支援の機能がある】【コミュニケーションが拡がる】【家としての機能がある】【世代間の交流がある】【社会参加としての機能がある】【地域コミュニティへの参加】【母性の深まり】の９カテゴリが形成された.

１）高齢者の語り（表 1）

高齢者の語りから施設を評価する視点を有する 99 文脈単位を抽出し，分析対象として意味内容の類似性に基づき分類した結果，14 サブカテゴリと 6 カテゴリが形成された.

「お食事が楽しみ」「家庭ではできない多彩なメニュー」とワンコインランチを評価する語りや「行く場所があって，安心して，神経を使わずにいられる」など．講座や〔スタッフの良さ〕の施設サービスを肯定的に評価する語りが多く聞かれた．また，〈自分で歩いて通う〉ことに自立した高齢者としての尊厳を感じており，〈近い〉距離を評価する語りも聞かれた．それらからサブカテゴリとして，〔近距離で通いやすい〕〔お金がかからない〕〔ランチが良い〕〔講座に魅力がある〕〔スタッフの良さ〕，カテゴリとして【サービスの良さ】が形成された.

「家族を失ったことから，距離を置ける様になった」〈居場所になる〉などの語りが聞かれ，サブカテゴリとして〔心理的サポートが得られる〕〔居場所になる〕〔身体的健康度が上がった〕，カテゴリとしては【高齢者支援の機能がある】が形成された.

利用者同士の「挨拶や会話がプラスに働く」ことや「思い出話（回想法）をする」との語りが聞かれ，講座やランチで会話が弾み，交流が拡がる様子から，サブカテゴリとして〔会話が弾む〕，カテゴリとして【コミュニケーショ

ンが拡がる】が形成された.

施設は一戸建ての住居を利用しており,「よその家ではない感じがある」〈雰囲気がよい〉と感じており,「玄関が良い」「畳は体になじむ」など〈実家スタイルに良さがある〉という語りが聞かれた. また, 庭や建物が家であることから得られる「安心感」や「入りやすい」などの語りも聞かれた. これらからサブカテゴリとして〔建物が家であることに良さがある〕, カテゴリとして【家としての機能がある】が形成された.

世代間の交流として「軽い交流ができている」様子が明らかになった. また,「高齢者だけの世界は異様」と感じており,〈いろいろな世代がいて当たり前〉,「それを実現できていることはいい」と各世代がいる施設を評価していた. 高齢者は, 戦争体験の有無や終戦を迎えた年齢によって異なる体験をしており〈高齢者の中でも世代差がある〉と語られていた. また,「家庭までは入らないが, 挨拶よりは親しい関係」で,〈人との適度な距離が取れている〉様子が明らかになった.「子どもとふれあうことが楽しみ」「子どもがかわいい」など子どもとの交流の楽しさを表出する語りが聞かれ, これらからサブカテゴリとして,〔異なる世代と交流できる〕〔高齢者世代との交流がある〕〔子どもとの交流がある〕, カテゴリとして【世代間の交流がある】が形成された.

施設を利用することは〈家から出るきっかけ〉であり, 自立して社会に参加する機会と評価していた. 講座も「聞いているよりは参加する」意識をもち,〈社会との関わりがもてる〉ことを積極的に求めている高齢者の姿が明らかになった. これらからサブカテゴリとして〔社会参加をする〕, カテゴリとして【社会参加としての機能がある】が形成された.

表 1　高齢者の語りの分析結果

カテゴリ	(件数)	サブカテゴリ	(件数)	コード	(件数)
サービスの良さ	(40)	近距離で通いやすい	(11)	交通の便が良い	4
				自分で歩いて通う	3
				近い	3
				遠くまで出かけられない	1
		お金がかからない	(1)	お金がかからない	1
		ランチが良い	(4)	ランチが良い	4
		講座に魅力がある	(12)	講座が良い	4
				頭を使う場	3
				指先を使う場	3
				知的好奇心が刺激される	2
		スタッフの良さ	(12)	スタッフの対応が良い	4
				スタッフとの交流がある	3
				職員が適度に距離を取る	1
				職員と利用者がお互い対等である	1
				弱っている人には、その人にあった対応をしている	1
				職員教育ができている	1
				スタッフが親切	1
高齢者支援の機能がある	(12)	心理的サポートが得られる	(2)	悲しみから立ち直れた	1
				自分らしくやっていかれる	1
		居場所になる	(4)	居場所なる	4
		身体的健康度が上がった	(6)	通所で元気になった	3
				８年継続できた	1
				要介護から要支援になった	1
				介護サービス対象として浮く	1
コミュニケーションが拡がる	(6)	会話が弾む	(6)	利用者同士が親しくおしゃべりできる	3
				挨拶や会話がプラスに働く	1
				子育て世代との軽い会話	1
				回想法	1
家として機能がある	(10)	建物が家であることに良さがある	(10)	安心できる	3
				雰囲気が良い	2
				実家スタイルに良さがある	2
				畳が体になじむ	1
				入りやすい	1
				玄関が交流の場	1
世代間の交流がある	(17)	異なる世代と交流できる	(7)	世代間交流ができる	2
				世代間交流に関わる	2
				いろいろな世代がいて当たり前	1
				世代間交流はどの世代にもいい	1
				軽い交流ができる	1
		高齢者世代との交流がある	(2)	高齢者の中でも世代差がある	1
				人との適度な距離が取れている	1
		子どもとの交流がある	(8)	子どもが刺激になる	2
				子どもから元気をもらう	1
				子どもの笑顔が見られる	1
				子どもを見て喜ぶ	1
				子どもが可愛い	1
				子どもの声が聞こえる	1
				赤ちゃんとのやり取りがある	1
社会参加としての機能がある	(14)	社会参加をする	(14)	家から出るきっかけ	8
				自分の意志で外に出掛ける	1
				外に出るきかっけづくり	1
				自分がボランティアする	1
				聞いているより参加する	1
				自分が講師になる	1
				社会との関わりがもてる	1
合　計					99

2）子育て世代の母親の語り（表 2）

子育て世代の母親の語りから施設を評価する視点を有する 280 文脈単位を抽出し，分析対象とした．意味内容の類似性に基づき分類した結果，24 サブカテゴリと 7 カテゴリが形成された．

施設は一戸建ての民家を利用しており，「スペース的に広くなくて，ほど良い人数」といい，小規模であることを評価していた．

ランチについて「美味しくて安いし，魅力的」であると，メニューや内容を評価していた．また，「子ども連れだとちょっと気を使ったりすることもあるので，気兼ねなく食事ができる」など〈ゆっくり食事できる〉，子どもが騒いでも〈迷惑を気にしないで食事ができる〉と評価していた．

子育て世代の母親は子育ての悩みを抱えることが多いが，「世間話でも，一人でいるときよりは気持ちが違う」など，施設で〈不安や悩みを解消する〉ことを評価していた．また，同年代とは違う視点で，「子育ての経験者から言われるアドバイスで，あっそうかと思えることがある」と語っていた．また，子育て中は「家では時間が作れない」「手芸をやることで，イライラ感が減り，子どもに向ける気持ちが変化した」などから，サブカテゴリとして，〔利用者の規模〕〔ランチが良い〕〔相談機能がある〕〔スタッフの良さ〕〔講座に魅力がある〕〔近距離で通いやすい〕〔利用しやすい〕，カテゴリとして，【サービスの良さ】が形成された．

子育て世代の母親は，施設を「違った世代から子どもをみてもらい，かわいいねって褒めてもらう」と〈違った人から子どもを見てもらえる〉ととらえていた．「他のママさんから子育て情報を得る」「育児書に載っていないこともたくさんあって，先輩のベテランさんに聞いてよかった」と情報入手でき，子育てに関する不安を，高齢者に相談することで解消し，施設に来ると「自分の時間が持て，好きなことができる」と評価していた．また，「一緒にいてくださって，お話もよくできるし，一人じゃないな」と孤立感の解消にも寄与していた．これらからサブカテゴリとして〔子育てを支援する〕〔子育て情報の入手〕〔子育ての肯定〕〔子育て負担の解消〕〔孤独感の解消〕，カテゴリとして【子育て支援の機能がある】が形成された．

「ここはゆっくり親同士の話ができるから，仲良くなれる人が多い」と，施設で〈世間話する〉〈気軽に話せる〉などコミュニケーションを図っていた．「スタッフが子どもを見ていてくれるので，友達とゆっくりしゃべれるし，ランチもおいしい．ランチができて，子どもが遊べる場所となると他にはない」など，施設は子どもがいても安心していられる場であり，親同士の〈気兼ねない場〉であった．これらからサブカテゴリとして，〔会話が弾む〕〔コミュニケーションできる場がある〕，カテゴリとして【コミュニケーションが拡がる】が形成された．

「ここは家っていう雰囲気がある」「おじいちゃんおばあちゃんがいて，親の世代がいて，実家にきて気持ちが落ち着く」として「実家感がある」などの語りが聞かれた．「商業施設だと構えてしまうが，ここは畳部屋があって」〈家みたいな感じでいい〉，施設の規模が〈こじんまりしている〉．これらから，サブカテゴリとして〔実家機能〕〔建物が家であることの良さ〕，カテゴリとして【家としての機能がある】が形成された．

「今までできなかったことができた」，異年齢の子どもから「刺激を受けているみたい．」など〈他の年齢の子どもの発達が見られる〉こと等〈子ども同士の世代間交流〉を評価していた．また，高齢者を「遠い未来の自分がそこに見えたりする」と〈自分の未来のモデルになる〉存在と認め，高齢者が〈子どもや親のことを見ていてくれる〉などの語りから，子育て世代と高齢者が交流している様子が明らかになった．これらからサブカテゴリとして，〔子ども同士の交流がある〕〔高齢者と子どもの交流がある〕〔子育て世代と高齢者の交流がある〕，カテゴリとして【世代間の交流がある】が形成された．

子育て世代の母親は施設での交流で関係性を深めており〈地域に人間関係が拡がる〉様子が明らかになった．また，携帯や SNS を利用し〈ネットワーク〉を構築していた．それらからサブカテゴリとして，〔地域に人間関係ができる〕〔友達との交流の深まり〕〔社会参加をする〕，カテゴリとして【地域コミュニティへの参加】が形成された．

子育て世代の母親は「手芸をすると手作りということができ，自分の中の良い母親感があって，大きくなったら，作ってあげたよって言ってあげられるのもいい」などの語りが聞かれた．「かわいいねってあやしてもらえるので，すごくうれしいなって思う」「愛情を感じる」などの語りも聞かれ，サブカテゴリとして〔母親感の自覚〕〔子育て観の自覚〕，カテゴリとして【母性の深まり】が形成された．

Ⅴ．考　察

1．世代間交流施設としての意義と役割

内容分析の結果から 1)【サービスの良さ】，2)【高齢者支援の機能がある】，3)【子育て支援の機能がある】，4)【コミュニケーションが拡がる】，5)【家としての機能がある】，6)【世代間の交流がある】，7)【社会参加としての機能がある】，8)【地域コミュニティへの参加】，9)【母性の深まり】の 9 カテゴリが形成された．

1）【サービスの良さ】

ワンコインランチについては，多彩なメニューと価格が肯定的に評価されていた．また，子育て世代の母親は一つの居室で，子どもを自由に遊ばせながら，母親同士が交流しランチを楽しんでいた．施設には，親子を暖かく見守る雰囲気が満たされており，子連れが抱きがちな周囲への気兼ねは不要であった．

相談機能については，高齢者やスタッフが母親の話をよく聞くこと，肯定的言葉かけをすることで安心感をあたえ，子育ての先輩として相談を受けていることが明らかになった．現代の母親は，核家族化，子育て経験の不足などで，育児不安を抱えることが多く，馬場，村山，田口，村嶋（2013）は，母親の孤独感の予防・軽減には，母親の対人態度や状況に応じ個別や集団で，母親の肯定感を高められるような介入やママ友達・友人と直接会う機会及び実父母・ママ友達・友人からソーシャルサポートを得られるような働きかけが重要としている．B施設においても，交流によって母親の不安や孤独感が軽減しており，高齢者やスタッフが，ソーシャルサポートとして機能していることが明らかになった．

先行研究において，地域の高齢者が，その地域での生活をよりよくするために，社会的活動に主体的に参加し，地域での新しい生活文化の創出に関わる必要があるものと考える．高齢者のもつ膨大な活力で地域社会を支える力として取り込んでいくことは，高齢者自身の 生きがいを保障し，コミュニティ形成に寄与する機能を果たすことになろう（佐藤秀紀，佐藤，山下，2002）としている．B施設での多様なプログラムは，母親にとっては気分転換の場，高齢者にとっては楽しみや生きがいの場となっており，施設利用の動機や目的として機能し，主体的な社会参加につながっていることが明らかになった．地域の高齢者が，地域での生活をよりよくするために，社会的活動に参加し，地域での新しい生活文化の創出に関わる必要があることから，施設は利用者のニーズを的確に把握し，効果的なプログラムやサービスの提供を行うことが，施設の社会的意義や利用者の社会参加の促進に有用であるということが示唆された．

2）【高齢者支援の機能がある】

山口（1996）によると，回想法は高齢者の日常的な行動であり，気分転換や自分自身の人生を意味づけるために回想することが多いとされているが，B施設においても，過去の栄光や懐かしい話が多く，回想の場となっていた．さらに，高齢者は，配偶者や友人と死別し，喪失を体験することが多いが，悲しみの癒しの場所ともなり，高齢者にとって，施設は有用な心理的サポートの場になっていることが明らかになった．さらに，施設を利用することで，心身ともに健康度が上がり，介護予防につながっていることが示唆された

3）【子育て支援の機能がある】

B施設では，友人関係の深まりや地域コミュニティへと交流が拡がる，母親の気分転換・活発なコミュニケーションが行われ，子育ての孤立の解消に役立っていた．

子育て世代の母親の語りから，施設での高齢者やスタッフとの交流は，母親の不安や孤独感を軽減するソーシャルサポートとして有用であることが明らかになった．さらに，専門職への相談を敬遠する語りも聞かれ，母親は相談の内容によって，専門職と施設を使い分けていた．原田（2003）は，悩みの話し手の言葉を受容的に受けとめ，必要な情報について尋ね自分の理解したことを伝え返すというコミュニケーションのあり方は，専門性の有無にかかわらず，悩みをきく際の重要な要素であり，広くは社会的スキルとして人に備わっているとしていること，B施設においても，子育ての悩みの解決，不安や孤独感の解消をしていることから，子育て支援には，子育て経験者が有用であることが示唆された．

子育て情報については，異年齢交流による発達状態の把握や，保育園等他の施設の情報などを「先取り情報」として入手し，自分の子育てに役立てていた．また，育児書にはない健診の上手な受け方や育て方のこつなどの情報も入手し，情報が氾濫する社会において，信頼できる情報源として活用されていた．子育て支援施設は，安全上の配慮から，子どもの年齢で区分する施設が多いが，異年齢の子どもをもつ母親同士の交流が子育てにとって意義あるものであることが明らかになった．

子育て世代の母親はスタッフの支援を受けて講座に集中できていた．子育て中に子どもから離れ，趣味に興じられる機会は少なく，施設は母親にとって貴重な気分転換の場として有用であることが明らかになった．

高齢者やスタッフから子育てを肯定してもらい「これでいいのだ」と視点を変化させられる，声掛けによって肩の力が抜けるなど，子育てに迷いが生じたときなどに支援を受けていた．母親の人間関係の広さが，育児不安と関連する（牧野，中西，1985）ということからも，施設での世代間交流によって子育ての肯定，育児不安や子育ての孤立感が軽減し，子育て支援が行われていたことが明らかになった．

B施設では，高齢者が子どもをほめる，あやすなどの世代を超えた交流が行われ，子育て支援に高齢者と子育て世代が交流する施設が有用であることが明らかになった．

表２　子育て世代の母の語りの分析結果

カテゴリ	（件数）	サブカテゴリ	（件数）	コード	件数
サービスの良さ	（100）	利用者の規模	（5）	通所者が限られている	3
				ほど良い人数	2
		ランチが良い	（21）	ランチが美味しい	15
				ランチが安い	3
				食事のメニューが多様である	1
				ゆっくり食事できる	1
				迷惑を気にしないで食事ができる	1
		相談機能がある	（12）	不安や悩みを解消する	7
				子育てに関するアドバイスが得られる	3
				専門家じゃないところが良い	2
				スタッフに話を聞いてもらう	2
				相談できる	1
				プロだと怒られる	1
				子育ての思い込みからスタッフの言葉で解決する	1
				スタッフに悩みを相談する	2
		スタッフの良さ	（11）	スタッフに親近感がある	4
				スタッフが話しのつなぎ役	3
				スタッフが遊びを提供してくれる	1
				子どもたちをちょっと見ていてくれる	1
				スタッフに愛情があふれている	1
				スタッフに子育て経験がある	1
		講座に魅力がある	（15）	講座が良い	10
				気軽に教えてもらうことができる	3
				子育て以外の趣味	1
				人に教えてもらう	1
		近距離で通いやすい	（15）	近距離	12
				アクセスが良い	2
				徒歩圏	1
		利用しやすい	（14）	気軽に来られる	5
				暑くてつらい時や天気の悪いときに利用する	2
				雰囲気が良い	2
				時間を忘れる	1
				迷惑を掛けない	1
				やさしい施設である	1
				施設があって助かっている	1
				自由に過ごせる	1
子育て支援の機能がある	（77）	子育てを支援する	（11）	子どもを遊ばせる場	9
				家族以外の人からあやしてもらう	1
				違った人から子どもを見てもらえる	1
		子育て情報の入手	（20）	生の子育て情報を先取りできる	18
				育児書ではわからない実際のことが分かる	2
		子育ての肯定	（6）	自分の育児を肯定してもらえる	4
				子育ての楽しみが増す	2
		子育て負担の解消	（29）	気分転換になる	20
				一人では煮詰まってしまうので、施設を利用する	4
				子どもを見ていてくれる	2
				自分の時間が持てる	1
				子育て以外の時間がない	1
				子育てのイライラ感が解消できる	1
		孤独感の解消	（11）	孤独感がなくなる	11
コミュニケーションが拡がる	（23）	会話が弾む	（16）	世間話する	5
				気軽に話せる	3
				たわいない会話が楽しめる	3
				色々な話が聞ける	2
				顔見知りになる	2
				ゆっくり話せる	1
		コミュニケーションできる場がある	（7）	安心できる場	2
				気兼ねない場	1
				安心していられる	1
				子どもに目が届く	1
				子どもがいても安心していられる	1
				施設にいるとホッとする	1
家としての機能がある	（14）	実家機能	（6）	アットホーム	2
				建物が家で実家感がある	2
				家の雰囲気	1
				実家みたいで安心する	1
		建物が家であることの良さ	（8）	家みたいな感じでいい	7
				こじんまりしている	1
世代間の交流がある	（32）	子ども同士の交流がある	（16）	子ども同士の世代間交流	7
				他の年齢の子どもの発達が見られる	5
				子どもの成長の刺激になる	1
				核家族にとっては、兄弟効果の場	1
				子どもの社会性の育成ができる	1
				異年齢交流	1
		高齢者と子どもの交流がある	（7）	高齢者と子どもの交流がある	6
				あたたかい交流がある	1
		子育て世代と高齢者の交流がある	（9）	自分の未来のモデルになる	3
				高齢者と気軽におしゃべりして世代間交流	1
				世代間交流の場になっている	1
				高齢者を身近に知ることができる	1
				高齢者の知恵が得られる	1
				昔の日本の人と人のふれあいの話が聞ける	1
				子どもや親のことを見ていてくれる	1
地域コミュニティへの参加	（29）	地域に人間関係ができる	（6）	地域に人間関係が拡がる	5
				ネットワークがある	1
		友達との交流の深まり	（22）	友達が作れる	10
				人間関係の深まりになる	5
				人との関係が深まる	3
				ママ同士の友だちとの交流の場	2
				ママ同士のつながりが深い	1
				ネットワークがある	1
		社会参加をする	（1）	よそいき感がある	1
母性の深まり	（5）	母親感の自覚	（3）	良い母親感を感じる	2
				子どものものを手芸で作るとやってあげた感を感じる	1
		子育て親の自覚	（2）	子育て親が広がる	2
合　計					280

4）【コミュニケーションが拡がる】

先行研究において，楽しい会話はリラックス感を生むとともに，副交感神経の活動が活発化する効果（高田，2013）があることが明らかになっている．B施設においても，活発なコミュニケーションが行われており，安心感の享受と繰り返しの施設利用で，安定的な人間関係の形成に寄与していることが明らかになった．

5）【家としての機能がある】

B施設は，一戸建ての住居であり，階層を生かして，主に高齢者は1階，子育て世代は2階と区分されており，高齢者と乳幼児の安全が自然に保たれるよう配慮されていた．

利用者は，一戸建ての家に明るさ，やさしさ等を感じており，建物が家であることの良さ（以下，これを「家機能」という．）を肯定的に評価していた．家機能は，建物が一戸建てである，庭・広い玄関・畳の部屋・台所機能などのハードの面と，やすらぎや実家感を感じるなどのソフト面を有し，家機能があることで，交流や利用が促進されていることが明らかになった．

街づくりにおける交流や地域コミュニティの拠点には，家機能を有する一戸建てを意識した建築デザインを取り入れることで交流が活発化し，利用の継続化に有用であることが示唆された．

6）【世代間交流がある】

母親やスタッフとの交流や子どもの存在が，高齢者の喜びや回想につながっており，多世代と一緒に過ごすことが，互いに効果的な刺激となっていた．

先行研究において，高齢者と接した経験のある学生の方が，ソーシャルスキルや日常的な満足感が高い，他の世代と過ごした人の方が，ソーシャルインクルージョンが高い，社会的弱者を擁護する養護性が高くなる（齋藤，2010）と世代間交流の意義が明らかになっており，乳幼児と高齢者との触れ合いも，高齢者への効果だけでなく，子育て世代が世代間交流の有用性を評価していることが明らかになった．

さらに，自立している高齢者の存在は，母親やスタッフにとって，未来のモデル，人生の模範であり，健康維持の方法や生活の工夫など，高齢者からの知見を得ていた．すなわち，自立した高齢者は，次の世代の手本となり，介護を受ける側の弱者としての存在ではなく，社会にとって価値のある役割を有し，世代間交流の大切な意義があった．

子育て世代の母親の語りから，子育て肯定感の獲得，子育ての相談等，高齢者が子育て文化の伝承者として子育て支援に寄与していること明らかになった．わが国の施策は，世代間分離の傾向が多いが，世代間交流をすることによって，高齢者が子育て文化の伝承役を担うという新たな役割を有することが示唆された．

高齢者の中でも戦前，戦後，団塊の世代などのように，高齢者の中にも世代区分が存在し，世代間の交流が行われていることが明らかになった．一般的な高齢者の区分は，前期と後期である．しかし，本研究の語りから，今後は戦争体験をしている世代・団塊の世代等の社会的背景についての配慮が求められていることが明らかになった．

年齢区分をしている乳幼児施設が多いが，柏木は，ゼロ歳児といえども，他の子どものすることを見て，それに刺激を受け興味を持ち，自分もそうしようとする（柏木，2001，p.53）としており，乳幼児施設での異年齢交流を評価している．B施設においても，子育て世代の母親にとっては，異年齢交流が子どもの成長への刺激となっていることが明らかになり，異年齢交流の必要性が示唆された．

7）【社会参加としての機能がある】

高齢者にとって，B 施設は気軽で適度な距離感を持った交流の場，居場所となっていた．施設を自発的に利用することで，高齢者の尊厳が保たれており，社会参加することで身体的健康度の向上と介護予防に役立っていた．

我が国の高齢者福祉の施策には，主として高齢者の孤立予防，孤独感の解消を目的として，歩いていける集会所などに高齢者の交流の場を設けることによって営まれる活動として「ふれあい・いきいきサロン」があり，「社会参加の場」「福祉教育の場」として機能しているという報告（高野，坂本，大倉，2007）があるが，B 施設においても，利用者同士の交流や社会参加の機能を持つことが明らかになり，高齢者が地域の中で自主的に活動できる場として介護予防や孤立防止の役割が期待できることが明らかになった．

8）【地域コミュニティへの参加】

子育て世代に特徴的なカテゴリであり，プログラムや相談機能などを利用しながら，携帯・SNS 等の利用へと関係性を深め，施設での出会いから地域での挨拶や会話へと交流が拡がり，利用者同士のネットワークが形成されている．このことから，施設が地域コミュニティの交流拠点としての役割を有していることが明らかになった．また，利用者は家の近くに施設があることも評価しており，近隣に交流拠点があることが，利用の促進・交流の活発化につながっていることが示唆された．高齢者は，地域での活動は少なく，地域への拡張を評価する語りは聞かれなかった．

9）【母性の深まり】

手芸の成果物をみていると「良い母親感」を感じ，手作りに満足を感じていた．子育て世代に特徴的なカテゴリであり，プログラムの効果である．また，世代間交流によって，新たな子育て観を獲得する，母性が深まる様子が明らかになり，施設が親として成長していく場として，意義のあるものであることが示唆された．

Ⅵ．結　語

高齢者の社会参加と子育ての母親の語りを分析した結果，9カテゴリが明らかになった．【サービスの良さ】では，ワンコインランチや多様なプログラムが，【家としての機能がある】では，広い玄関，庭，台所機能や食事スペース，畳部屋などの一戸建て住宅の建物の特性と実家感などの家から得られる感覚が，交流を促進していた．また，【社会参加としての機能がある】【地域コミュニティへの参加】が明らかとなった．さらに，母親の【母性の深まり】が見出された．自治体の施設として，対象者別が多い中，本施設は多世代（高齢者，子育て世代，中高年，児童，乳幼児）が参加し，協力し合って高齢者支援，子育て支援に取り組むという世代間交流の意義と役割が果たされていることが明らかになった．

Ⅶ．謝　辞

本研究の趣旨をご理解頂き，ご協力頂いた研究協力者の皆様に深く感謝いたします．

〈引用文献〉

馬場千恵，村山洋史，田口敦子，村嶋幸代（2013）．乳児を持つ母親の孤独感と社会との関連について～家族や友達とのソーシャルサポートネットワークとソーシャルサポート．*日本公衆衛生雑誌*，12, 727–737.

原田杏子（2003）．人はどのように他者の悩みをきくのか～グラウンデッド・セオリー・アプローチによる発言カテゴリの生成．*教育心理学研究*，51，54–64.

樋口真巳（2014）．シニア世代の社会参加と学習支援の仕組みについての考察～地域貢献活動を中心に～．*西南女子大学紀要*，18，163–172.

柏木恵子（2001）．*子育て支援を考える*．p. 53，岩波ブックレット．

国立社会保障・人口問題研究所（2012）．日本の将来推計人口：http://www.ipss.go.jp/syoushika/tohkei/newest04/（最終閲覧日 2015.5.5）

草野篤子（2004）．インタージェネレーションの必要性．*現代のエスプリ*，444, 5–8.

牧野カツコ，中西雪夫（1985）．乳幼児を持つ母親の育児不安～母親の学習活動への参加と育児不安～．日本教育社会学会大会発表要旨集録，37, 38–39.

内閣府（2012）．高齢者大綱：http://www8.Cao.go.jp/kourei/measure/taikou/pdf/p_honbun_h24．pdf（最終閲覧日 2015. 5. 5）

岡眞人（2009）．日本における高齢者雇用の現状と課題．*関西学院大学（経済系）*，238, 30–46.

齋藤嘉孝（2010）．*子どもを伸ばす世代間交流*．pp. 61–85，勉誠出版社

佐藤秀紀，佐藤秀一，山下弘二（2002）．地域在宅高齢者における活動能力と社会活動の関連．*日本保健福祉学会誌*，8, 3–15.

佐藤美樹，田髙悦子，有本梓（2014）．都市部在住の乳幼児を持つ母親の孤独感に関連する要因～乳幼児の年齢集団別の検討．*日本公衆衛生雑誌*，3，121–129.

高田大輔，松田ひとみ（2013）．高齢者の自律神経系の反応から見た「楽しい会話」によるケアの可能性～「音読」と比較して～．*日本プライマリケア連合学会誌*，36，5–10.

高間由美子，杉原利治（2002）．高齢者の社会参加と生きがいの研究．*東海女子短期大学紀要*，28，31–38.

高野和良，坂本俊彦，大倉福栄（2007）．高齢者の社会参加と住民組織～ふれあい・いきいきサロン活動に注目して～．*山口県立大学大学院論集*，8，129–137.

山口智子（1996）．回想法．高齢者の回想～主観的幸福感・時間的展望との関連～．*名古屋大学教育学部紀要*，43，163–173.